

增補
繪抄

千字文餘師

全

千 6
4750





37572 <2001-3857

太平廣記たいへいくわうき曰いはく晋しんの武帝ぶたい代よ大夫たいふ鍾繇しゅうようと
 云い者もの千字文せんじぶんを作つくりて天子てんしに奉たてまつり帝てい甚たく
 愛敬あいけい賜たまひ暫時ざんじ御手ごてに放はなし給たまはる後のち晋帝しんてい
 宋そうの文帝ぶんていに魏えいの丹陽たんようと云い所ところに落おちり其その時とき
 千字せんじの文ぶん御車ごくるま中ちゆうに在あり途中ちゆうちゆう大雨おほいあめ遇あひ雨あめ
 車くるま内うちに泄ひれ千字文せんじぶんを浸ひれ丹陽たんように行ゆき其その後のち
 書あき篋かの中ちゆうに收おさめ宋そうの文帝ぶんてい天下てんかを治あめり
 晋帝しんていの書庫しよこを定ひむ此この書しよを得える片へん

第一字乱冊々次次改改失以王義之王義之余余が
 顔顔を次次しむは是是を得得に其其後後梁梁の武武帝帝入
 時時あまあまく周周興興嗣嗣と云云人人博博学学の字字あり帝帝令令
 しく顔顔を次次しむは一夕一夕ああて編編綴綴千字文
 全全くあまあまく帝帝厚厚感感ぬみひ貴貴を揚揚ふ然然と
 興興嗣嗣の賢賢發發垂垂く白白くく斯斯苦心苦心の
 巧巧實實に世世の至至寶寶とあある是是を寫寫すべし也
 楓川市隱誌

國讀
 梁の負外散騎
 侍郎周興嗣次韻
 天地玄黄
 宇宙洪荒
 日月盈昃



千字文

梁負外散騎侍郎

周興嗣次韻

天地玄黄
易曰天玄而地黄
 宇
淮南子四方上下を宇といひ

宙洪荒
淮南子四方上下を宇といひ

官の名周の姓あて興嗣の名あり次韻と云余ありて韻を
 次て文をつむるは



辰宿八列張

寒来暑往

秋收冬藏

閏餘歲を

成

とん世界の初より後まで成り小洪と大荒と荒ハ草昧と訓
て天地開闢の初よりと揚子と云ふ一より一より大なるをいふなり

日月盈昃 辰
昃と日西なり
盈と月老のなり

宿列張 辰
宿と二十八宿の星のなり
張と十二宮のなり

寒来暑往 易の輟辭ハ寒
往則暑来暑往

秋收冬藏 則寒来とある河引とあり
一年のうりりりるさぬあり

閏餘成 樂記ハ秋分冬藏とあり
但寒の説ハ秋の分ハ夏天地の中ハ冬なり

律呂陽を

調

雲騰雨を

致

閏餘成歳 書の先曲ハ六基三百有六旬有六日
以月定四時成歳とある月を置

律呂調陽 神とハ黄鐘大
簇姑洗蕤賓ハ

夷則無射あり品とハ大呂夾鍾中呂林鐘南呂應鍾をいふ
律呂管ハ八をいふ

雲騰致雨 禮記ハ天降時雨
山川出雲とあり雲

露結為霜 詩ハ蒹葭蒼蒼白露為霜といふ
秋とハ朝の露の霜



霜 詩ハ蒹葭蒼蒼白露為霜といふ
秋とハ朝の露の霜

露の結で霜

と為

金の麗水

生

玉の崑岡

出

劍の巨闕

珠の夜光

稱す

某の李柰

珍と

環と

金生麗水

金の麗水は今の雲南麗江府の金その水

玉出崑岡

崑岡崑崙山とて西蕃にある山あり岡の崑

劍の巨闕

劍をのり巨中巨闕と

巨闕の

珠の夜光

侯とりのもの珠の夜光の蛇の命をすけりる小を蛇玉侯

夜光の珠と号す

某の李柰

李柰の李柰

李柰の李柰

環と

環と

環と

菜と芥薑

重

海ハ鹹河

淡

鱗

翔

菜重 菜の重なるを菜重と云ふ

菜重

芥薑

芥の薑の中あり芥薑と云ふ

芥薑

鹹河淡

海の水の鹹なるを鹹河と云ふ

鹹河淡

羽翔

鱗と魚の羽を翔と云ふ

羽翔

龍師

伏羲の時龍馬圖河負て出た

龍師

帝

燧人氏をのり食糧

鳥官

鳥官



帝

鳥官

鳥官

鳥官

龍師火帝
鳥官人皇
始制文字
乃衣裳
服也
推位讓國
有虞陶唐

鳥をいひて人皇
上古の世に天皇氏地皇氏人皇氏といふものありて天皇
官を名づく
地皇を
始制文字
一字一義制と云ふ
乃衣裳
のりて衣裳をつつしむ衣裳
推位讓國
有虞陶唐
有虞は舜の都に陶唐は堯の都なり舜と堯は海内國號なり
吊民
ぬひ舜を吊ふゆりのぬひ聖王のぬひ
を吊るぬひて天下を他ふゆりのぬひ

民を吊罪を
伐ハ周殺殷湯
朝坐して道
垂拱して平
章

伐罪周殺殷湯
周の武王の四名なり殷湯と殷の湯を殺すの討をなす
朝坐して道
を坐するなりぬひ夏の桀の悪行
坐朝問
朝に坐して天子の道を行ふ
垂拱
垂拱の字書は武成に曰く垂拱して天下は治るなり
平章
平章の字書は武成に曰く平章にして天下の事は成るなり
聖王の朝ふの事なりぬひ平章は百官を治めぬべし
ぬひの事なりぬひ平章は百官を治めぬべし



黎首を愛育

戎羌を臣伏せ

遐迩體を壹

王不歸を

鳴鳳樹を在

他の小春より坐朝のれあり
あくも後世よりてあつり

愛育のあつり
の黎首といふ民をさす

戎羌の西の國の夷をさす
王の臣伏しては

も迺ちも身をひらとほ
の宿を服する

をいふの式を率賓の漢書
率土の定とのわ

愛育黎首

臣伏戎羌

遐邇

王不歸

鳴鳳在

白駒場を食

化草木を

被り

頼萬方を及

樹

食場

化被草木

頼及萬方

髮四大五常

蓋此身



聖王の代ある周國あり
鳴鳳の樹あり

食場の白駒
君の徳を教ふ及び

化被草木
草木の

頼及萬方
一人有

蓋此身
孝經の髮を

髮四大五常
受之父母の四大を

蓋此身髮四

大五常

恭鞠養を惟

豈敢毀傷

女々貞潔を

慕

男々才良

知

地水火風をのりて一身をまわらばり人國貴經ふといふ五
常ハ仁義禮智信との五常をまのりて一身をまわらばり

恭惟鞠養豈敢毀傷

恭らうやうとよむるものやうしく思ふと父母の
申るひそそそと忠敬の心 豈敢とハ俗の心とす

女慕貞潔

貞潔の女はひひと慕ふもの慕ふ
もつひも潔の字に不ゆるかあり

良男效才知

過必改 得能

莫忘 續日本紀

罔談彼短

靡恃己長

信

使可覆



過を知りて
必改し
能を得て
忘らば
彼短を
罔談
同也己長

過を知りて必改し能を得て忘らば彼短を罔談同也己長
莫忘 續日本紀
靡恃己長
信
使可覆

を恃たもと非非

信しんのあ覆ふくを可可

使しよ

畧りやく量りやう難なん欲よく

墨ぼく八はち絲しのそ深ま深

をあ悲ひ

詩しのあ羔か羊じやう讚さん

景けい行かうのあ惟い賢けん

第だい多たのあ信しん言げん也なりとのりて後ご我がの
りてその多た信しん言げん也なりとのりて後ご我がの

器き欲よく難なん

量りやう為なるる人ひとのあ量りやう測そくりのあらずる人ひとのあ量りやう測そくりのあらずる人ひとのあ量りやう測そくりのあらずる

墨ぼく悲ひ絲し深ま深

詩し讚さん羔か羊じやう

景けい行かう維い賢けん

詩しのあ高かう山さん仰やう

克く念ねんババ聖せいと

作さく徳とく建けんとた名な

立たっ

形かたち端たんけけ表ひょう

正せい



克く念ねん作さく聖せい

徳とく建けん名な

立たっ

表ひょう正せい

空くう谷こく傳でん聲せい耳みみ

堂どう習じゆ聽しん

虚こ

空谷聲傳くうこくせいであつた
 虛堂聽雨きょどうてんう
 禍ハ惡の積わざはひはあくのたまり
 因福ハ善慶よきふはぜんけい
 縁えん
 尺璧寶せきひやくたから以もつて非あらざる
 寸陰是競すんいんしやうきやう
 父不資ちちふして君きみ
 事ことハ曰いは嚴げん
 と敬けい

名形端正なけいていせいとる
 禍わざはひ因よ惡あく積たまり福ふく

縁えん善ぜん慶けい
悪事を積むと禍のひびき

尺璧せきひやく非あらざる寶たから寸陰すんいん是こゝろ競あそぶ

淮南子曰くわいなんしつ聖人せいじん不あらず貴たがは尺之璧せきしちのひやく而しか重おも寸之陰すんしちのいんとありて一尺の璧ハ
 寸陰ハ寸の目すんいんはすんのめ

資し父ちち事こと君きみ曰いは嚴げん
父と君と事ともあつた

與よ敬けい
父と君とも事ともあつた



孝きやうハ當あた力ちからを
 竭きやく
 忠ちゆうハ則すなは命いのち盡つくし
 深こゝろ臨かみて薄うす
 夙しやく興おこ温ぬる清しみ

孝きやう當あた力ちからを
 竭きやく
 論ろん諸しよハ
 事こと父ちち母はは

忠ちゆう則すなは命いのち盡つくし
命をすくふ

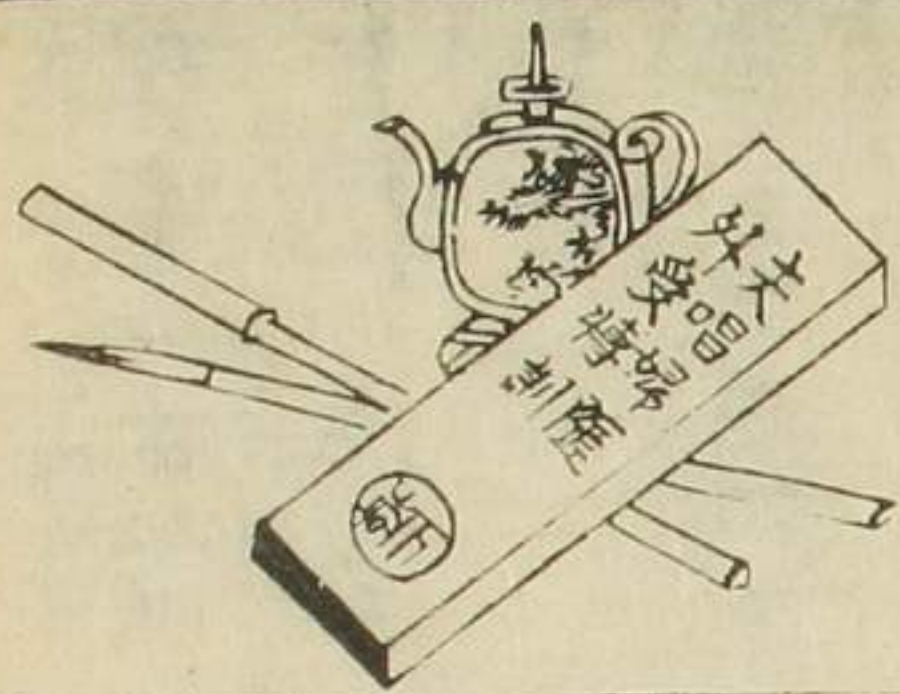
深こゝろ臨かみて薄うす
詩ハ如臨深淵

夙しやく興おこ温ぬる清しみ
水をたぎ

清しみ
忠孝をやる

似に蘭らん斯し馨せい香かう如ごと松しょう之の

曲まが禮れいハ
入る



榮業の基と
 する所
 籍甚竟無
 學優るん登
 仕職を攝
 政に従ふ

盛

人の功の下に蘭の香のさぐり木の葉の上をふ
さうりるがさぐりる各々さぐりくこのさへさるり

川流不息

川水の流れて止まらぬ
く常小忠考成つくせま

淵

澄取映

澄れた淵のあはれさすまらうてさるり
るるり忠考の徳のあはれさるり

容止若思

禮記小儀若思とある
のさぶらふさすあひ

言

辭安定

あはれも安定時と禮記のあはれ
物つふともあつるれさるり

篤

初誠美慎終宜令

詩小雅
不有初

初を篤と為
 誠美さう終汝
 慎ハ令宜

榮業の基と
 する所
 籍甚竟無
 學優るん登
 仕職を攝
 政に従ふ

辭竟有終とありて始のさるりあはれさるり
常の徳のさるり忠考の道その始のあらさるり
初と
基とあはれさるり
るり業のさるり

あはれさるり人のあはれさるり
籍甚と
甚さく各のたさるり
 學優登

仕職從政

攝職と
仕職と

をあらさるり
ありて附の政に従ふ
 存以甘棠公

存すふ甘棠

を以て益

詠

樂と貴賤を

殊

禮の尊卑を別

上和れ下睦

夫唱婦隨

外ありて傳訓

を受



り不義を奉
入て母儀を奉
諸姑伯叔猶子
兒小比也
孔懷兄弟

而益詠

甘棠のまゝに召公の木の葉と
あて祈を園のふみ民の徳化り

感じて召公のまゝに
まのふみ祈を園のふみ

樂殊貴賤

天子の
樂ハハ

伯緒侯ハ六伯大夫ハ四伯士
も二伯とて尊卑人の扱送也

禮別尊卑

冠服の類ありて
いづれもあらざる

上和下睦

上ある
人あり

ぎく下へのぞき
ハ下の令れじつぎ

夫唱婦隨

唱と
隨と

あり夫を外を理婦の儀まのり
夫のちあひびくまに徳ほし智を

外受傳

訓

男外ありて
師の訓をうけ

入奉母儀

家内
あり

ハ母の儀範
をうけざる

諸姑伯叔猶子

比兒

婦とハ父の姉妹ありて
いハ父の弟叔とて禮記の擯に比

之子猶子也とのまゝに
あむらむあむらむのどけ

孔懷兄弟

同氣連枝

孔ハ甚なり兄弟ハ父母の同氣
をうけて生れぬ形を

あるとのどけハ
正義をあらはれ

交友投分

同氣連枝

友に交ふ分

を投下

切磨箴規

仁慈隱側

造次も離れ

弗

節義廉退

友に交ふ分を投下

切磨箴規

切磨箴規の衛凡不玄如切如

如磨しあり玉石をふるくせり多り朋友とてに字交を

過るふ仁慈隱側

仁慈のわづらひ

造次弗離

造次も離れ

節義廉退

節義

顛沛も虧性静れ情逸

顛沛も虧性静れ情逸

心動い神疲

真守ハ志満

堅雅操を持

沛

顛沛も虧性静れ情逸

性静れ情逸

性

心動い神疲

心動

神疲

守真志

逐物意移

堅持雅操好爵



これ好爵自
麻糸

都邑華夏

東西二京
邨

面洛

渭涇

樓觀飛

自麻

都邑華夏

西二京

面洛

樓涇

盤盞

好爵自麻
官祿のつら
好爵のつら
好爵のつら

都邑華夏
天子の居る所
華夏の六中
國の中心

洛陽の東にあり
西の都にあり
二京と云ふ

東の都にあり
洛陽の東にあり
二京と云ふ

渭も涇も
天子の居る所
宮殿あり

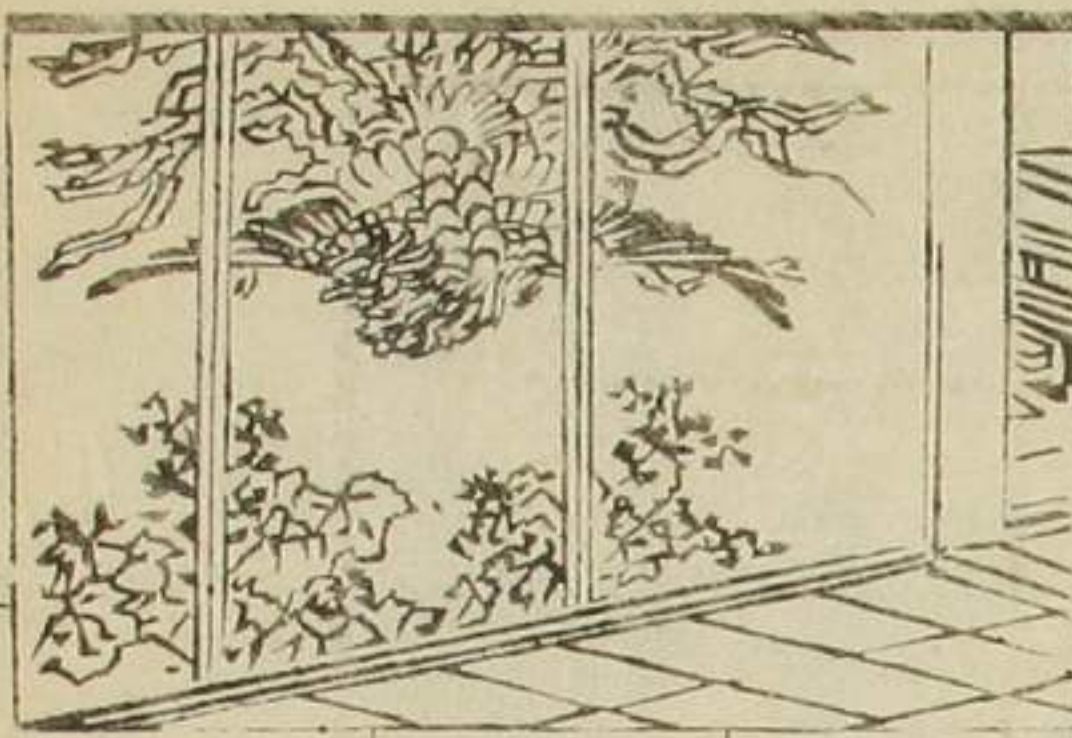
天子の居る所
宮殿あり
樓觀飛

禽獸と圖寫

仙靈と畫

丙舍傍お啓

甲帳搢お對



驚馬

獸畫綵仙靈

丙舍傍啓

甲帳對搢

肆筵設席

瑟吹笙

圖寫禽

仙靈

傍啓

對搢

設席

吹笙

驚馬
の驚がどし
由急に入
驚つるあり

獸畫綵仙靈
綵色に
宮殿の
甲帳の
對搢

丙舍傍啓
丙舍ハ
宮殿の
傍に
あり

甲帳對搢
甲帳ハ
搢と
對搢

肆筵設席
筵も席も
たに
敷く

瑟吹笙
天子
諸侯を
殿上
に入せ
宮殿
外

筵を肆席を設
 瑟を鼓笙を吹
 階外陞小納
 弁轉ト々星
 と疑
 右廣内小通ト
 左承明子達ト
 既墳典を集
 亦君羊英と
 聚

階納陞 階も陞も在堂
弁轉疑 弁ハ西漢の冠なり此れトク光り星トク
星 弁ハ西漢の冠なり此れトク光り星トク
通廣内 廣内ト廣の意
左達承 廣内ト廣の意
明 承明ト明の意
既集墳典 墳典ト典の意
亦聚群 聚ト群の意
英 英ト聚の意
杜橐 杜橐ト橐の意
漆 漆ト橐の意



杜橐鍾隸
 漆書壁經
 府將相を羅
 路小槐卿を俠
 戸小八縣を封ト

書壁經 魯の共王孔氏の壁の中より古文書
府羅將相 府の羅將相の意
路俠槐卿 路の俠槐卿の意
戸封八縣 戸の封八縣の意
鍾隸 鍾隸ト隸の意
漆 漆ト隸の意

八縣の邑を
家給千兵

八縣の邑を
家給千兵

家給千兵

八縣の邑を
家給千兵

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦

高冠
陪輦

高冠陪輦

高冠陪輦



策功
勒碑
刻銘

策功勒碑刻銘

策功勒碑刻銘

碯溪
伊尹

碯溪伊尹

碯溪伊尹

且孰
營

且孰營

且孰營

且孰
營

且孰營

且孰營

且孰
營

且孰營

且孰營

且孰
營

且孰營

且孰營

且孰
營

且孰營

且孰營



説武丁を感入密勿と多士寔寔し

宅を曲阜に奄且微孰り營桓公匡合弱と濟傾を扶綺と漢惠を回

晉楚更霸

人その小密勿を多しひあり云

密勿多士

武丁の殷の高宗より

説

武丁の殷の高宗より

回漢惠

弱扶傾

桓公匡合

濟傾

漢惠

曲阜

Red vertical text columns with various characters and annotations.

Blue vertical text columns with various characters and annotations.

晋楚更霸

趙魏横小困

途を假て虢

踐土して會

盟

何の約法を遵

韓の煩刑を

霸といふ諸侯ありて天子のひとに
つれぬひあるは虢のあり
國西に據地して國東を假地して秦の昭王國西ありて
つれぬらんるるの國東ありて趙魏の國を秦に
あそむる
假途滅虢
晋の狄公虢をうらん
つれぬるるの國東ありて趙魏の國を秦に
あそむる
假途滅虢
晋の狄公虢をうらん

趙魏困横

趙魏の國を秦に

晋の狄公虢をうらん

踐土會盟

何の約法を遵

韓の煩刑を

起翦煩牧

起翦煩牧
軍を用て最
精
威と沙漠不宣

刑
韓の秦の國の天將を殺して秦の刑法を
起翦煩牧
王翦と

起
白起と

翦
王翦と

煩
煩悩と

牧
秦の牧と

軍最精
上より四人の將の軍兵ありて

宣威沙漠
沙漠を威する

馳譽丹青
丹青の馳譽



威と沙漠不宣

宣威沙漠

馳譽丹青

譽と丹青うたふとにせき

九州くしゅう禹跡うゑあと

百郡ひやくぐん秦并しんぺい

嶽たけ恒岱こうたい

宗そう禪ぜん主しゅ

雁門えんもん紫塞しさい

名がせ後漢も平八將領南宮の雪をふりぬぐぐせりと

九州禹蹟

後周王水城をさるる西九州をさるる東九州をさるる冀州兗州青州徐州揚州荊州豫州梁州雍州をいふ

百郡秦并 秦の始皇六國を併せ

嶽宗恒岱 恒と北岳の恒岱と

禪主 禪の主

云亭 禪の封禪天子巡狩する所あり

雞田赤城けいでんせきじょう

昆池碣石こんちけつせき

鉅野洞庭きよのうみどうてい

曠遠繇邈くわうえんようめつ

雁門 雁の門

紫塞 秦の始皇六國を併せ

雞田赤城 雞田の赤城

昆池碣石 昆池の碣石

鉅野洞庭 鉅野の洞庭

曠遠繇邈 曠遠の繇邈



巖岫

巖岫香冥

治ハ農を本

茲稼穡を務

倣て南畝小

載

我黍稷を藝

熟を稅新を

貢を

香冥

山に穴ある岫岫と云ふ香冥と云ふ

治

本於農

國政治るを本とし農

務茲

稼穡

穡を五穀を云ふ

倣載南

畝

種の大田の篇曰く載其の篇云々

我藝黍

稷

黍稷を云ふ

稅熟貢新

陟

勸を百姓に農を藝せしむるを

勸賞黜

勸賞黜

勸を百姓に農を藝せしむるを

孟軻

孟軻

孟軻の言を云ふ

史魚

史魚

史魚の言を云ふ

秉直

敦素

孟子の言を云ふ

度幾中庸

度幾中庸

中庸の言を云ふ

孔子

孔子の言を云ふ



中庸と度幾

勞謙謹勅

音を聆て理を

察を鑑て色

厥嘉猷を貽

其祇植を勉

中庸と度幾の語不若子の中庸をすりと
の意の庶幾と中實をいねる之
勞謙を易の字あり徳を多うする勅の
勅の意

音を聆て理を人の音徳とすくその道理
をいふはつうふすの意なり

察を鑑て色人の貌を鑑てその人の
色をいふはつうふすの意なり

厥嘉猷を貽道よくいふはつうふす
の意なり

其祇植を勉祇をいふはつうふすの
意なり

勉其祇植

省躬譏誡

寵増杭極

殆辱近恥

林臯幸

即

見機解組誰逼



躬を省て譏誡
誠を
寵増杭極
辱殆恥近
林臯幸

即 位にたれば恥辱の身ふあぶみのありそのとれ
ぞして林臯幸の編をまぬぐるべしと林臯

見機解組誰逼 漢の時時
誰受しり父

幸へ
 兩疏機を見
 組を解て誰
 逼ら
 閑處小索居
 沈黙
 寂寂
 古を求て尋論
 慮以散て逍遙
 欣奏て累遣

子あり父の廣がのちとは... 長久
 なるべし受がいらく功成名遂身退ハ天の道なりといひて
 父子病と繼し印後を解れ冠の組を門ふり
 てさうりぬ維わかく逼迫してさうりめんやと
 居閑處 沈黙寂
 寥 求古尋
 論 散慮逍遙
 欣奏累遣



感謝と歡招
 渠荷的歷し
 て園葦條を抽
 枇杷晩翠小

感謝歡招
 渠荷的歷
 園
 葦條を抽
 枇杷晩翠
 梧桐早凋
 根委翳



耳垣みみかき 垣かき 垣かき 小こ 屬ぞく
 膳ぜん 具ぐ 飯い 食く
 口くち 適た 腸ちやう 充ちゆう
 飽ほう 烹かう 宰さい 饑けう

耳垣みみかき 垣かき 垣かき 小こ 屬ぞく
 膳ぜん 具ぐ 飯い 食く
 口くち 適た 腸ちやう 充ちゆう
 飽ほう 烹かう 宰さい 饑けう
 槽そう 糠かう 親しん
 飢けう 厭えん

梧桐ことう 早そう 凋てう
 陳根委ちんこんい 廢はい 料りょう
 落葉らくえつ 飄ひょう 飄ひょう 飄ひょう 飄ひょう
 遊ゆう 鷗う 獨どく 運うん
 絳じやう 霄せう 不ふ 凌りやう
 麻手あし 不ふ 耽たん 讀どく 市し 不ふ 翫くわん
 目め 囊のう 箱かう 不ふ
 寓ぐ 易い 輶い 畏い 攸い

落葉らくえつ 飄ひょう 飄ひょう 飄ひょう 飄ひょう
 鷗う 獨どく 運うん 凌りやう 摩ま 絳じやう 霄せう
 耽たん 讀どく 市し 不ふ 翫くわん
 目め 囊のう 箱かう 不ふ
 易い 輶い 畏い 攸い

飢^ウ六^{ソウ}糟^{ソウ}糠^{コウ}小^コ厭^イ
 親^シ戚^シ故^コ舊^{キウ}
 老^{ロウ}少^{ショウ}糧^{リョウ}を^ヲ異^イ
 妾^{メカ}御^ミ績^シ紡^フを^ヲ
 巾^{キヌ}に^ニ帷^ヒ房^フ小^コ
 侍^シを^ヲ
 純^{ジュン}扇^{セン}圓^{エン}う^ウ
 潔^{ケツ}う^ウ

戚故舊 親戚の故舊なり
 老少異糧 老幼の異なる糧なり
 妾御績紡 妾の御績紡なり
 侍巾帷房 侍の巾帷房なり
 純扇圓潔 純白の扇圓潔なり

銀^{ギン}燭^{ソク}焯^{ソウ}煌^{コウ}
 晝^{シユ}八^{ハチ}眠^ミ夕^{シユ}小^コ寐^ミ
 藍^{アイ}筍^{ソノ}象^{ゾウ}牀^{シヤウ}
 弦^{ゲン}歌^カ酒^{シユ}讌^{エン}

銀燭焯煌 銀燭の焯煌なり
 晝眠夕寐 晝の眠夕の寐なり
 藍筍象牀 藍筍の象牀なり
 弦歌酒讌 弦歌の酒讌なり



接^{セツ}杯^{ハイ}舉^{キョウ}觴^{ソウ}
 弦^{ゲン}歌^カ酒^{シユ}讌^{エン}

千
 七
 五

杯を接觸を

擧

矯手頓足

悅豫之且康

嫡後嗣續

祭祀蒸嘗

稽顙再拜

悚懼恐惶也

まろ杯も觸もさうぐれのり
まろのあーめるさあをり

矯手頓足

まろびあーむしあろりあろあろ
まろあろーあろあろあろ

悅豫

且康

悦あろあろあろ

嫡後嗣續

嫡の長子をのち後と父母の後を
うろく嗣續へうのち後と父母の後を

祭祀蒸

嘗

四季に先祖のぬりをさるる春のまゆりを論といひ
爰を禱といひ秋を嘗冬を蒸といひ春を爰といひ

稽顙再拜

稽顙再拜

悚

懼恐惶

まろれつーまろまろ
つーまろ祭禮はまろ

牋牒

簡要

牋牒を書れまろのつたれと紙を裁く
つたれ簡要とことするに要あつたれ

顧谷審詳

人の目の返事れあつたれ
と申あつたれあつたれ

骸垢想浴

あつたれあつたれあつたれ
あつたれあつたれあつたれ

執熱願涼

暑熱あつたれあつたれ
あつたれあつたれあつたれ

驢騾犢特駛躍超驤



牋牒の簡要
顧谷の審詳
骸垢つたれ浴
を想

執を執ての涼

を願

驢驘犢特を

駢躍超驤を

賊盗を誅斬

叛亡を捕獲

布射遠丸

嵇琴阮嘯

恬筆倫紙

釣巧仕釣

紛を釋俗を

利をのり



驢驘をうさだちまきり犢を牛の子特ハ豚の子こる牛
のうさだちまきりまきり駢躍超驤しかり

誅斬賊盗 捕獲

叛亡 布

射 遠丸

嵇琴 阮嘯

恬 筆

倫紙

釣巧 仕釣

紛を 釋俗を

利を のり

皆佳妙

毛施淑姿

二

五〇

並ふ皆佳妙

とも小姿貌
よれちり

工嘖妍笑

工嘖と眉目
こころ西施が故

有り

東之妍笑の
よけてあま

年矢毎催

年矢と文選陸
士澗が長歌の

毛施淑姿有り

毛施淑姿有り

年矢毎催

年矢と文選陸
士澗が長歌の

工嘖妍笑と

工嘖妍笑と

年矢毎催

年矢と文選陸
士澗が長歌の

年矢毎催

年矢毎催

年矢毎催

年矢と文選陸
士澗が長歌の

曦暉朗曜と

曦暉朗曜と

曦暉朗曜と

曦暉朗曜と

璇璣懸幹

璇璣懸幹

璇璣懸幹

璇璣懸幹

晦魄環照と

晦魄環照と

晦魄環照と

晦魄環照と



指新脩祐

指新脩祐

指新脩祐

指新脩祐

永綏吉劬

永綏吉劬

永綏吉劬

永綏吉劬

矩歩引領

矩歩引領

矩歩引領

矩歩引領

矩歩引領

矩歩引領

矩歩引領

矩歩引領

俯仰廊

俯仰廊

俯仰廊

俯仰廊

廟

廟

廟

廟

東帶矜莊

東帶矜莊

東帶矜莊

東帶矜莊

廊らう朝あさ俯ふ仰おほ

東とう帶たい矜しん莊じやう

非ひ細こ瞻ぜん眺たう

孤こ陋ろう寡くわ聞もん

愚ぐ蒙もうとと謂い

馬ま哉や乎や也や

矜しん莊じやうとと謂い 非ひ細こ瞻ぜん眺たう 非細のうら

眺たうとと見けん 孤陋寡聞 孤陋のうら

謂い 禮れい紀き不ふ攝せつ學がく而に愛あい別べつ孤陋而寡聞とあり是

謂い 禮れい紀き不ふ攝せつ學がく而に愛あい別べつ孤陋而寡聞とあり是

謂い 禮れい紀き不ふ攝せつ學がく而に愛あい別べつ孤陋而寡聞とあり是

馬哉乎也 文ぶん不ふ語ご助じゆといありそれの語の



語助と謂者 馬哉乎也

也の字の體をわくあり 俗に馬字といふはこれハ唐の 俗に馬字といふはこれハ唐の 俗に馬字といふはこれハ唐の

千字文 終 鈴木拙春勸

弘化三丙午年夏五月再刻

淺草福井町壹丁目 山崎屋清七板

